亮多ジャーナル

指揮者は音を出せない演奏家!?

発行所
目黒区立目黒小学校
4年
島崎亮多

2025年7月6日（日）午前十一時より、港区サントリーホールで第94回子ども定期演奏会が開かれました。この日は「音楽世界巡りドイツ、フランス、オーストリア」と題し、指揮者の下野竜也さんと東京交響楽団の演奏をたくさんの子ども達が楽しんでいました。

ぼくはホールの音の響きに驚きました。学校の音楽室は防音になっていて音が響きません。体育館では音は響きますが、ホールの響きとは全くちがいます。ぼくはホールの響きが好きです。

下野さんに、指揮をする時に、大切にしていることを聞くと、「興奮しすぎず冷静を保つこと」だそうです。「指揮者は、音が出せない唯一の演奏家です。音を出してくださっているのは演奏家なので、自分が気持ち良くなるのではなく、オーケストラの皆さん人に気持ち良く演奏してもらえるような指揮をすることが目標です。」と言っていました。

演奏会では、下野さんがぴょんぴょんとんだり、大きく指揮棒を振る姿を見ていたので、ぼくは少し驚きました。

しかし、指揮者が興奮して演奏家が冷静な時よりも、指揮者は落ちついているけど、演奏家が力一杯演奏している方が、感動する演奏になりそうだなと思いました。「指揮者はげんきょさが大切といっていった。」と話してくれました。演奏会に出演したピアニストの小山実稚恵さんも同じように、小さいころは楽しい曲が好きだったが、大人になると悲しい曲も好きになったそうです。

下野竜也さんに、うれしい曲と悲しい曲のどちらが好きかを聞いたところ、「子どものころは大きな音が好きだったが、大人になるごとに、だんだん静かな音楽も好きになった。」

がくゆ!!
好きな音楽
が、あなたはなにがあるか？

編集後記

取材を通じてぼくが感じたことは、実際話を聞いてみないと、その人の気持ちや考えなど本当のところは分からないということです。

これからは友だちや家族の話をしっかり聞いて、何を考えているのか知りたいです。

知らないことが分かるとうれしいです。